

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p><b>地域社会に貢献する、自立した人を育てる高校</b></p> <p>地域社会とのつながりや人との出会い、多様な学びを通じて、主体的に学び、自らの人生を切り拓くたくましさを育み、地域社会を支える人づくりをめざす。</p> <p>【育てたい力】</p> <p>多様な価値観を尊重し、違いを豊かさにして、協働できる力 自分の考えを的確に人に伝えたり、傾聴できるコミュニケーション力 地域や社会に関心を持ち、参画、貢献しようとする意欲と実行力 豊かな人権感覚・人権意識</p>
---

2 中期的目標

<p>1. 新たなステージへの深化</p> <p>「多様性の尊重」「地域性の重視」を特長とする高校としての実績、強味を最大限生かし「教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む」とする「社会に開かれた教育課程」の理念を追求する普通科専門コース再編に取り組む。</p> <p>将来構想検討委員会を開催し、普通科専門コースにおけるカリキュラム・教育内容の充実に取り組む。 新たな学校像が地域の中学校や教育関係者、中学生、保護者に共有されるよう、丁寧で広範な広報活動に取り組む。</p>
<p>2. 確かな学力の育成と進路実現</p> <p>ア 授業公開、研修、授業アンケート（年2回）研究授業を連動させ、年間の授業改善サイクルを充実させる。 ユニバーサルデザインを意識した教育環境の整備、わかりやすい授業づくりに取り組む。 「主体的・対話的な深い学び」を追求し、真摯に授業改善に取り組む。 教員のニーズに応じた研修の充実に努める。 教職員の「専門性」の向上「同僚性」の発揮を促進し、「ストレス」の少ない「働きやすい」「働きがいがある」職場づくりに取り組む。</p> <p>イ 「思考力」「判断力」「表現力」「学びに向かう力」「人と協働できる力」の育成 生徒の興味や関心を喚起し、社会と繋がる意識を育てる課題解決型、探究型の「思考力」「判断力」を育成する授業づくりに取り組む。 普通科専門コースにおける「発表」の機会を「総合的な学習の時間」（2年次）に実施するとともに、3年次の芸術鑑賞や文化祭での発表の機会を通して、「表現力」を育成に努める。 「総合的な学習の時間」やLHR、学校行事を通じて、「自己・他者・社会の在り方 生き方・進路に関連付ける」=「学びに向かう力」や「協働できる力」を育てる。</p> <p>ウ 学年の学力生活実態調査結果や定期考査の振り返りを活用し、進路への意識づけ、学習の充実に努める。 学年の進路指導部、学習指導部の連携のもと、早い時期から進路に向けた適切な学習指導を継続的に行う。 「進路実現満足度100%の学校」をスローガンに、進路について考える機会を増やし、丁寧な進路指導・学習支援を通じて、生徒一人ひとりにとって満足度の高い進路実現をめざす。 a. 生徒向け学校教育自己診断「エリア・コースや授業は将来の役に立つ」、b. 普総選アンケート（3年）「進路は選択エリアと関連があった。」の各項目について a.90%、b.80%をめざし、2021年度までその水準を維持する。</p>
<p>3. 豊かな人権感覚・人権意識の醸成</p> <p>ア 学校行事やクラス活動における生徒相互の関わりや協働性を重視し、自尊感情や生徒相互の信頼感を醸成する。 イ 生徒の実態に即した課題を設定し、当事者の話を聴くなど、共感に基づく人権学習を通じて、豊かな人権感覚を醸成する。 ウ 実習や体験、発表、地域活動への参加等を通じて自己有用感や自尊感情を醸成し、道徳感や公共心、ボランティア等社会貢献への意識を育てるとともに、よりよい社会の創り手となる意欲や行動力を育成する。</p>
<p>4. 「ともに学び、ともに育つ」教育、生徒支援の充実</p> <p>ア 人権教育推進委員会、教育相談委員会、支援教育コーディネーターの連携を密にし、校内の教育相談・支援体制の充実に努める。 高校生活支援カードを有効に活用し、支援の必要な生徒の早期発見、実態把握に努め、必要な支援体制をつくる。 状況把握、経過観察、情報共有に努める。 必要に応じてケース会議を適宜開催し、外部機関や専門家とも連携して、生徒理解を深め、支援の充実に努める。</p> <p>イ 共生推進教室の取組みの充実に努め、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。 共生推進教室で学ぶ生徒への適切な指導、必要な支援を通じて、自己理解と社会参加への自信、就労への意欲を育てる。 共生推進教室で学ぶ生徒との日常的な交流を通じて、全ての生徒に障がいのある人への理解、共生の意識を育む。 3年卒業時、共生推進教室で学ぶ生徒の就労100%をめざす。</p>
<p>5. 規範意識の醸成と自主性・主体性の育成</p> <p>ア 遅刻、頭髪、服装、原付、あいさつ、清掃等の指導等、基本的生活習慣やマナーの確立を通じて、社会性を育てる。 イ 部活動加入を積極的に奨励するとともに、生徒会・委員会活動を活性化し、教育活動のあらゆる機会において生徒の自主性・主体性を引き出す。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分] 数値はR1の肯定的評価 <【 】内はH30の肯定的評価>	学校運営協議会からの意見
<p><b>授業改善</b></p> <p>「授業はわかりやすい。学習意欲が高まる。」 生徒 61.4% 【65.3%】 1年 59.6% 【59.6%】 2年 60.9% 【57.9%】 3年 63.8% 【76.3%】 教員 91.5% 【94.9%】</p> <p>「授業での生徒の学力を伸ばす工夫。」 生徒 67.5% 【71.8%】 1年 71.8% 【70.1%】 2年 67.5% 【60.8%】 3年 63.1% 【81.9%】 教員 97.8% 【94.7%】</p> <p>「授業は静か。勉強に集中できる。」 生徒 66.5% 【68.5%】 1年 71.4% 【72.2%】 2年 69.6% 【56.7%】 3年 58.4% 【74.7%】 教員 87.0% 【94.8%】</p> <p>「生徒の学力向上に熱心な先生が多い。」 生徒 62.9% 【68.8%】 1年 65.6% 【65.1%】 2年 60.8% 【60.5%】 3年 62.1% 【78.4%】 教員 97.9% 【89.5%】</p> <p><b>学校の満足度</b></p> <p>「金剛高校に満足している。」 生徒 82.0% 【80.2%】 1年 82.5% 【84.1%】 2年 82.7% 【75.0%】 3年 80.8% 【81.1%】</p>	<p>第1回 令和元年7月13日</p> <p>&lt;協議&gt;</p> <p>(1) 平成30年度、平成31年度学校経営計画及び学校評価（校長より） (2) 卒業生の進路と今年度の進路状況（進路部長より） (3) 各学年より生徒の様子（各学年主任より） (4) 学習指導部より（学習指導部長より） (5) 広報活動について（企画広報部長より）</p> <p>&lt;意見交換&gt;</p> <p>本校において、働き方改革はどのように捉えられているのか。 職員が健康に留意しながら業務にあたれるよう、次のような取組みがある。 クラブ活動は年間104日、土日祝で24日以上以上の休みを設けさせる。事前に提出された年間予定表と概ね違わず実施されている。 定期試験の答えは、申請があった場合持ち帰りを認めている。仕事、法令順守を両立させたい。 職員が夏季休暇を申請しやすいよう、8月13日から16日は閉庁日としている。 従来の業務をすべて同じように残すのではなく、各コースの目標やエッセンスなど、教育内容を取捨選択して持続可能な教育活動をめざしたい。標準化できる業務はマニュアル</p>

## 府立金剛高等学校

「エリア・コースや授業は将来の役に立つと思う。」  
 生徒 85.4% 【84.7%】 1年 87.9% 【87.9%】  
 2年 86.3% 【82.1%】 3年 83.0% 【84.1%】

「普通科総合選択制高校アンケート」(3年)  
 「普総選高校で学んでよかった」 91.6% 【86.9%】  
 「卒業後の進路は自分が選択したエリアと関連があった」  
 74.3% 【75.2%】

## 安全で安心な居場所、クラスづくり

「クラスやクラブは一人ひとりが大事にされ話しやすい。」  
 生徒 78.9% 【81.6%】 1年 79.8% 【80.7%】  
 2年 79.7% 【82.5%】 3年 77.1% 【81.5%】  
 「先生は問題を見逃さず親身に相談に応じてくれる。」  
 生徒 72.8% 【72.8%】 1年 78.2% 【72.5%】  
 2年 65.3% 【69.3%】 3年 74.5% 【77.0%】

## 人権問題への理解、社会的課題への関心

「人権を学ぶ機会と人権問題への理解。」  
 生徒 89.9% 【88.1%】 1年 93.1% 【94.1%】  
 2年 88.0% 【81.1%】 3年 88.5% 【88.4%】  
 「総合等での新しい社会的課題を学ぶ機会があった。」  
 生徒 81.5% 【83.2%】 1年 80.0% 【92.4%】  
 2年 80.9% 【77.2%】 3年 83.4% 【80.2%】  
 「HR や発見(総合)で生き方や将来を考える機会があった。」  
 生徒 90.1% 【85.3%】 1年 93.4% 【92.7%】  
 2年 88.8% 【75.4%】 3年 87.7% 【87.1%】  
 3年間の人権意識の変化を比較した「人権意識調査」(3年)  
 「人権に関心を持っている。」  
 3年次 77.3% 【80.1%】 1年次 67.5% 【66.2%】  
 「自分を大切にできる気持ちが高まった。」  
 3年次 67.3% 【70.4%】 1年次 72.0% 【72.8%】  
 「人間関係の大切さを学んだ。」  
 3年次 88.8% 【88.1%】 1年次 96.7% 【95.4%】  
 「差別的な言動を見聞きした時、どのような態度をとるか。」  
 『差別を指摘して話し合う。差別はいけないと伝える努力をする。』  
 3年次 44.8% 【50.9%】 1年次 44.9% 【49.9%】  
 『何もせずに黙っている。』  
 3年次 16.3% 【14.8%】 1年次 13.6% 【15.9%】

## 進路指導

「進路について学校は必要な情報や機会を提供している。」  
 生徒 91.4% 【90.1%】 1年 93.2% 【93.1%】  
 2年 88.0% 【85.2%】 3年 93.0% 【92.1%】  
 「放課後や土曜日、長期休業中の講習、校内模試など進路実現に向けて取り組んでいる。」  
 生徒 83.8% 【82.9%】 1年 80.3% 【81.5%】  
 2年 86.5% 【79.0%】 3年 84.1% 【88.2%】  
 「進路相談やHRなどで熱心に進路指導している。」  
 生徒 77.1% 【81.2%】 1年 71.4% 【82.1%】  
 2年 74.7% 【77.5%】 3年 84.1% 【84.0%】

## 生徒指導

「学校生活全体の指導は適切である。」  
 生徒 75.1% 【72.2%】 1年 83.9% 【72.2%】  
 2年 69.1% 【67.5%】 3年 72.3% 【77.3%】  
 「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切である。」  
 生徒 60.6% 【60.3%】 1年 70.2% 【61.8%】  
 2年 53.3% 【58.6%】 3年 59.3% 【60.5%】

## &lt;結果と分析&gt;

学校の満足度等、全体としては昨年度より、数値的に上昇傾向にある。課題としては、授業改善、クラスづくり、生徒の自主性を引き出す取組を強化する必要がある。

次年度は3学年そるっての普通科専門コース制となる。金剛高校の「よさ」に磨きをかけ、「持続可能」な教育活動を追求したい。

作成などにより引継ぎを容易にさせ、一人の職員に負担が集中しないよう工夫したい。

小学生の頃から見守ってきた学年であり、体育祭が順延を繰り返した際には実施を訴えるなど今までに無い熱や思いを感じた。このエネルギーを受験勉強にも活かしてほしい。どのように伝えていけば甘い考えから脱却して自立を促せるのか、親も悩んでいる。PTA主催の進路見学会などは参加率が良くなく、保護者の意識も低いと考えられ、PTAからのさらなる働きかけの必要性も感じている。学校からも、メルマガなど紙以外の媒体でも情報発信をお願いしたい。

先日の市町村立中学校長会にて、以下の議題があり紹介する。

携帯電話について、わずかな市町村を除き、大阪府下の中学校では校内への持ち込みを原則禁止している。

学校の閉庁日は市町村が決めるが、富田林市では特定の閉庁日は設けられていない。松原、河南、河内長野は8月12～14日に閉庁日が設定されている。また、富田林市立中では昨年度より、35 を超える外気温下での部活動は原則禁止、30 以上では20分の休憩を挟むなどの対策をとっている。運動会は例年6月に実施しているが、堺市をモデルに5月に実施する案が出ている。短期集中して練習させることにより、職員の負担を減らし、業務のスリム化が図れると考える。

地域の見守り隊の方より、今年度は赤信号を守らない生徒が散見されるとの報告を受けている。全体で見ると遅刻する生徒は減っており、地域の方々からの評判も良い。あいさつをしたときに最も返答率の高いのが金剛生である。

共生ではない一般生徒にも学習面や対人関係で支援が必要な生徒はいるか。また、どのようにフォローしているのか。

36期生にはbとdの区別がつかず、総合英語の単位を落とした生徒がいた。卒業が危ぶまれたため以降の英語の授業では抽出して個別に指導した。今同じことをやろうとしても、確実に人手が足りない状況である。

基本は学年で対応するが、教育相談委員や人権推進委員でも情報を共有し、外部の判断も仰ぎながら解決に向けた支援に結び付けていっている。

外部委託が難しい業種柄、働き方改革も時間がかかると思われる。大切なのは府教委や校長が教職員の頑張りを適正に評価する仕組みで、これがあれば前に進むモチベーションも自ずと湧いてくる。現代の中高生は昔と比べて価値観が大きく異なっており、いかに意見や思考をすり合せて共に考えていけるかが大切である。高い目標を達成する喜びを教え、生徒がもつポテンシャルが発揮されるような教育をお願いしたい。

## 第2回 令和元年10月19日

<協議>

- (1) 学校経営計画の進捗状況について(校長より)
- (2) 地域実習「秋まつり」について(教頭より)
- (3) 共生推進教室の進捗状況について(共生コーディネーターより)
- (4) 進路実現の取り組みについて(進路部長より)
- (5) 学年の様子(各学年主任より)

<意見交換>

文化祭にて、受験を控えた高3生が演劇の準備を行うのは大変ではないか。

アンケートの結果をみると、負担でもあるが楽しみでもある、と生徒は捉えている。

受験に向けた気持ちの切り替えになる行事として機能している。

伝統的に行われる行事であり、上級生の姿勢を下級生は見ている。1、2年生の憧れの対象となるロールモデルとして、忙しい中でも3年生は毎年やりきっている。

息子はうだるような暑さに登校、事前準備を逡巡していたが、クラス全体が動き出してから前向きに取り組んでいた。子どもの成長のひとつのイベント、きっかけであると感じる。

## 第3回 令和2年2月8日

<協議>

- (1) 令和元年度学校経営評価と令和2年度学校教育計画(校長より)
- (2) 令和元年度学校教育自己診断結果について(教頭より)
- (3) 進路状況(進路部長より)
- (4) 学年の様子(各学年主任より)
- (5) 共生推進教室の状況(共生コーディネーターより)
- (6) 普通科総合選択制アンケート結果について(教頭より)

<意見交換>

文化祭にて、演劇を全クラス鑑賞したかったとの意見が保護者間で出ているが、改善策はあるか。

座席の空きスペースの問題で難しかった。要望を反映できるよう、改善したい。

実施時期を9月末にずらし、気化熱を利用したクールファンを導入する予定である。

本校が避難所に指定されている関係で、令和2年度に校費でエアコンが設置される予定である。

雨天時、車で送迎する保護者の中に、本校向かいの第一住宅の敷地に乗り入れる方がいる。この問題の対策はあるか。

次年度、保護者に宛てた書面に禁止事項として明記し、周知してもらう。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 新たなステージへの 深化	「多様性の尊重」「地域性の重視」を特長とする高校としての実績、強味を最大限生かし「社会に開かれた教育課程」の理念を追求する普通科専門コース再編に取り組む	将来構想検討委員会を開催。 普通科専門コースにおける、カリキュラム、LHR・総合の計画、行事等の精選など、教育活動の充実を図る。	将来構想検討委員会の検討内容を運営委員会、職会、学校運営協議会に報告し、現在及び金剛高校の将来像に対する肯定的評価が多数を占めること。	将来構想検討委員会 17 回実施（12 月末）コースガイドブックの検討、新カリキュラムの編成、現行カリキュラム課題の検討、再編整備に係る校内体制の検討、内規の改正、高大連携、実習などを論議し、運委、職会に報告。 教職員向け学校教育自己診断 「教育活動を振り返り改善に向けて取り組む」91.0%【78.9%】（ ）
2 確かな学力と進路実現	ア わかりやすい授業づくり  イ 「思考力」「判断力」「表現力」「学びに向かう力」「人と協働できる力」の育成  ウ 地域と連携しての交流、体験学習学習成果の発信	ア. 授業改善サイクルの充実を図る。年 2 回の授業アンケートだけでなく、生徒との対話を通じて授業改善に努める。 授業改善研修の充実。 授業公開、各教科での研究授業の実施。 「主体的・対話的な深い学び」を追求した授業改善。 授業交流による授業改善の促進。  教職員の「専門性」の向上「同僚性」の発揮を促進し、「ストレス」の少ない「働きやすい」「働きがいがある」職場づくりに取り組む  イ. 「主体的で対話的な深い学び」を意識した課題解決型・探究型の授業を実施し「思考力」「判断力」を養う。 「総合的な探究の時間」での発表や、行事の中での学びを通して、「表現力」「人と協働する力」を養う。 エリア・コースでの学習の充実を図り、「総合的な探究の時間」LHR、学校行事を通じて「学びに向かう力」「人と協働する力」を育成する。  ウ. 特色ある授業や取組みでの地域の学校、施設、団体との交流、体験を継続、推進する。 生徒の成長や学習成果を地域に発信する。 発達と保育 : 保育所での実習 保育音楽 : 保育所交流 進路指導部 : 幼稚園交流 社会福祉基礎 : 小学校の授業見学・交流 福祉施設との交流 手話・点字 : だいせん高等聴覚支援との交流 生活文化エリア : 保育所交流 幼稚園交流 地域コミュニケーションコース : 障がいのある人との交流	ア. 生徒向け学校教育自己診断 「わかりやすい授業」【63.0%】 65%、「学力を伸ばす工夫」【67.0%】 70%、「授業が静かで集中できる」【67.4%】 68%、「生徒の学力向上に熱心な先生が多い」【65.3%】 68.0%、「授業改善に積極的」【69.3】 70% 教職員向け学校教育自己診断 「わかりやすい授業」「学力を伸ばす工夫」90%以上を維持、「お互い協力し合う」80%以上 学校全体のストレスチェックが基準値を越えない。  イ. 生徒向け学校教育自己診断 「エリア・コースの授業は将来の役に立つ」【84.7 %】 85%、 「HR や「発見」などで、生き方や将来について機会がある」 【85.3%】 86% 芸術鑑賞アンケート 「芸術鑑賞を通じて、文化祭などでの表現力に生かすことができるか」70%以上 普総選択アンケート（3年） 「進路は選択エリアと関連があった」【75.2%】 76%を目標に取り組む  ウ. 生徒向け学校教育自己診断 「授業や部活動で他の学校や地域の人々と関わる機会」 【76.2%】 77%	ア. <u>生徒向け学校教育自己診断結果</u> 「わかりやすい授業」61.4%【63.0%】（ ） 「学力を伸ばす工夫」63.8%【67.0%】（ ） 「授業が静かで集中できる」66.5%【67.4%】（ ） 「生徒の学力向上に熱心な先生が多い」62.9%【65.3%】（ ） 「授業改善に積極的」67.5%【69.3%】（ ） <u>教職員向け学校教育自己診断結果</u> 「わかりやすい授業」91.5%【94.9%】（ ） 「学力を伸ばす工夫」97.8%【94.7%】（ ） 「お互い協力し合う」79.2%【76.9%】（ ） 学校全体のストレスチェック 111【104】（ ） 【今後の課題】 授業改善に工夫を凝らせるように、業務のスリム化・効率化が必要 イ. <u>生徒向け学校教育自己診断結果</u> 「エリア・コースの授業は将来の役に立つ」 85.4%【84.7%】（ ） 「HR や「発見」などで、生き方や将来について考える機会がある」 90.1%【85.3%】（ ） <u>芸術鑑賞アンケート結果</u> 「芸術鑑賞を通じて、文化祭などでの表現力に生かすことができるか」肯定的回答 81%（ ） 普総選択アンケート結果（3年） 「進路は選択エリアと関連があった」74.3 %【75.2%】（ ） 【今後の課題】 普通科総合選択制の特長の普通科専門コース制への接続が課題。 ウ. <u>生徒向け学校教育自己診断結果</u> 「授業や部活動で他の学校や地域の人々と関わる機会」 74.1【76.2%】（ ） 今年度新たに、理科の授業で幼稚園との交流や「生活福祉」の授業富田林支援学校との交流を実施。 【今後の課題】 改編による人数削減の中で、本校の特色を堅持しつつ、働き方改革を意識した業務の効率化を図ることが課題。

	<p>エ 進路に向けた意識の醸成</p>	<p>エ. 各学年の進路指導部と学習指導部の連携を軸に生徒情報や進路課題を共有し、1年次から、進路を考えさせるキャリア教育に取り組み、進路に向けた意欲を育てる。</p>	<p>エ. 生徒向け学校教育自己診断 「進路に必要な情報や機会の提供」【90.1%】 90%以上、 「進学講習や校内模試等進路実現の取り組み」【82.9%】、「進路相談やLHRでの熱心な進路指導」【81.2%】 それぞれ80%以上</p>	<p>エ. <u>生徒向け学校教育自己診断結果</u> 「進路に必要な情報や機会の提供」91.4%【90.1%】( ) 「進学講習や校内模試等進路実現の取り組み」83.8%【82.9%】( ) 「進路相談やLHRでの熱心な進路指導」77.1%【81.2%】( ) 【今後の課題】 1人ひとりの生徒に寄り添った丁寧な進路指導を今後も追及する必要。</p>
<p>3 豊かな人権感覚の醸成</p>	<p>ア 生徒相互の関わり、協働性の重視 自尊感情や相互の信頼感を醸成する人権学習、総合学習、学校行事</p>	<p>ア. 新入生オリエンテーション(1年) クラス スタートアップ、個人面談、遠足に至る年度当初クラスづくりを通じて、安心感のある高校生活を支援する。 行事等のクラス活動を通じて、生徒相互の関わりや協働性を育てる。</p> <p>イ. 生徒の実態に即し、当事者との出会いや体験等、生き方を考えさせる人権学習、総合学習を企画し、実施する。 人権研修の充実。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断 「金剛高校に満足している」【80.2%】「一人ひとりが尊重され気軽に話せるクラス」【81.6%】 それぞれ80%以上 普総選択アンケート(3年) 「普総選で学んでよかった」【86.9%】 90%以上を目標に取り組み</p> <p>イ. 生徒向け学校教育自己診断 「人権問題の理解」【88.1%】、「社会の新しい課題を学ぶ機会」【83.1%】、2つの項目とも83%を以上 人権意識調査(3年) 「人権に関心を持っている」 「自分を大切にすることが高まった」 「人間関係の大切さを学んだ」「差別的な言動を見聞きした時の態度」について『差別を指摘し話し合う。伝える努力をする』『何もせずに黙っている』という5項目の1年からの上昇を目標に取り組み</p>	<p>ア. <u>生徒向け学校教育自己診断結果</u> 「金剛高校に満足している」82.0%【80.2%】( ) 「一人ひとりが尊重され気軽に話せるクラス」78.9%【81.6%】( ) 普総選択アンケート(3年) 「普総選で学んでよかった」91.6%【86.9%】( ) 【今後の課題】 クラスづくりに課題</p> <p>イ. <u>生徒向け学校教育自己診断結果</u> 「人権問題の理解」89.9%【88.1%】( ) 「社会の新しい課題を学ぶ機会」81.5%【83.1%】( ) 人権意識調査結果(3年) 「人権に関心を持っている」 3年次 77.3% 1年次 67.5% ( ) 「自分を大切にすることが高まった」 3年次 67.3% 1年次 72.0% ( ) 「人間関係の大切さを学んだ」 3年次 88.8% 1年次 96.7% ( ) 「差別的な言動を見聞きした時、どのような態度をとるか」 『差別を指摘して話し合う。差別はいけないと伝える努力をする。』 3年次 44.8% 1年次 44.9% ( ) 『何もせずに黙っている。』 3年次 16.3% 1年次 13.6% ( ) 【今後の課題】 人権についての理解は深まったが、自己自身や他者との関係の在り方、態度・行動につなげることが課題</p>

<p>4 「ともに学び、ともに育つ」教育、生徒支援の充実</p>	<p>ア 生徒の実態把握ときめ細やかさや支援、指導</p> <p>イ 共生推進教室の教育内容の充実、ともに学びともに育つ教育の推進</p>	<p>ア. 生徒支援カード(1年生)の情報を学年会議、教育相談委員会で共有し、支援の必要な生徒の早期の発見、実態把握に努め、必要に応じた支援体制をつくる。</p> <p>イ. 教育相談委員会、人権教育推進委員会で生徒状況の経過観察を行い、学年と協議の上必要に応じてケース会議を開く。外部機関や専門家とも連携して、支援にあたる。共生推進教室の生徒についても、共生推進コーディネーターと密に連携し、必要に応じて適切な支援、ケース会議の開催を行う。たまがわ高等支援学校と連携して、共生推進教室の生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導や必要な支援を行う。</p> <p>ウ. 本校で学ぶすべての生徒に共生推進教室の意義を周知し、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断「問題を見逃さず相談に応じてくれる」【72.8%】 75%以上</p> <p>イ. 教育相談委員会、人権教育推進委員会のコンスタントな開催。その中で、配慮や支援が必要な生徒、社会的に立場のある生徒、外国にルーツを持つ生徒等の状況確認。支援が必要なケースに関しては校内関係部署及び外部機関との適切な適切なケース会議の開催。</p> <p>ウ. 共生推進教室の生徒が安全で安心して学校生活を送る。不登校や長期欠席がなく、いじめなどの人権侵害事象がない。また、共生推進教室の生徒が、クラス活動、学校行事に積極的に参加し、周りの仲間と温かい関係を結ぶことができる。卒業時の就労先の開拓。</p>	<p>ア. <u>生徒向け学校教育自己診断結果</u> 「問題を見逃さず相談に応じてくれる」72.8%【72.8%】( ) 【今後の課題】 今後とも生徒のシグナルをキャッチし迅速かつ丁寧に対応することが必要。</p> <p>イ. 支援の必要な生徒の情報共有及び支援の方針の確認をコンスタントに実施できた。特に外国にルーツを持つ生徒の支援については、保護者、関係機関と連携を密に行えた。( ) 【今後の課題】 学校文化として教職員一人ひとりが丁寧な指導援助ができること</p> <p>ウ. 共生推進教室の生徒の支援について、学年、教科、分掌等と連携を密にして、ケース会議を持つなどし、支援を行うことができた。共生3年生の就労について、3名とも就労先が決定することができた。( ) 【今後の課題】 共生推進教室が徐々に根付きつつあり、今後も深化すること。</p>
<p>5 規範意識の醸成</p>	<p>ア 基本的な生活習慣の確立</p> <p>イ 部活動の促進及び生徒会活動の活性化</p>	<p>ア. 生徒指導部と学年が一体となって遅刻、頭髪、服装、原付等の指導を行う。あいさつ、特に朝のあいさつの励行を全教員で推進する。</p> <p>イ. さまざまな機会を通じて、新入生への部活動への参加を積極的に推進するとともに生徒会執行部を中心に生徒会活動を活性化させる。</p>	<p>ア. 年間遅刻者 800 以下を目標に取り組む生徒向け学校教育自己診断「学校生活全体の指導は適切か」【72.2 %】 75%、「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切か」【60.3%】 65%</p> <p>イ. 生徒向け学校教育自己診断「学校は部活動に積極的」【79.5】 80% 「生徒会・委員会活動は活発」【75.2】 76%</p>	<p>ア. 年間遅刻者数 561【701】(3月末時点)生徒向け学校教育自己診断結果「学校生活全体の指導は適切か」75.1%【72.2 %】( ) 「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切か」60.6%【60.3%】( ) 【今後の課題】 一人ひとりの生徒の現在及び将来の最善の利益を中心に据えた生徒指導を今後とも継続。</p> <p>イ. 生徒向け学校教育自己診断「学校は部活動に積極的」79.3%【79.5】( ) 「生徒会・委員会活動は活発」72.8%【75.2】( ) 【今後の課題】 生徒の自主性・主体性の育成が課題</p>